

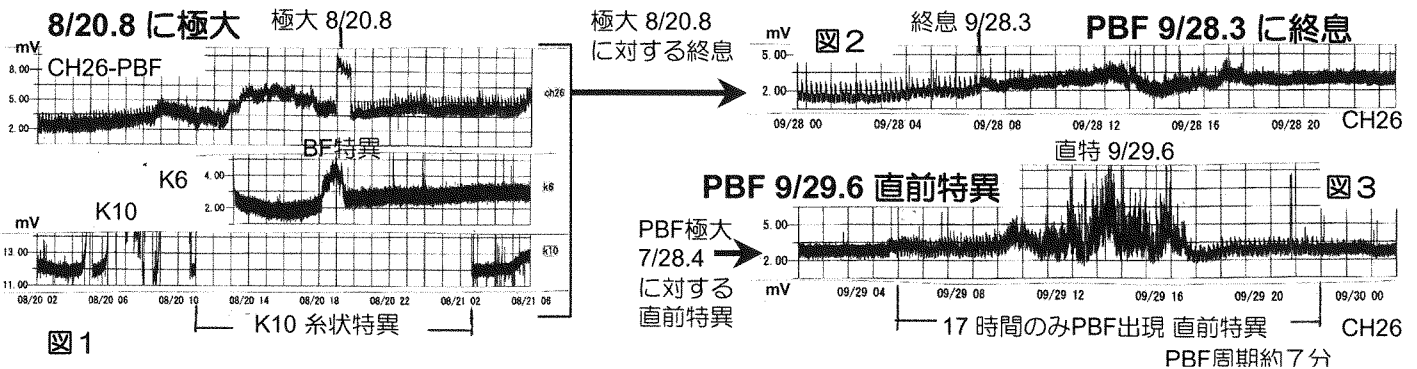
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ
No.1778長期継続大型地震推定前兆
原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.339

2022.09/30 (金曜) 12:00 発表

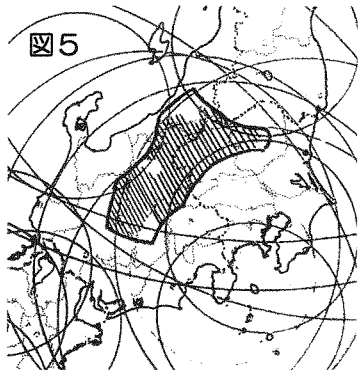
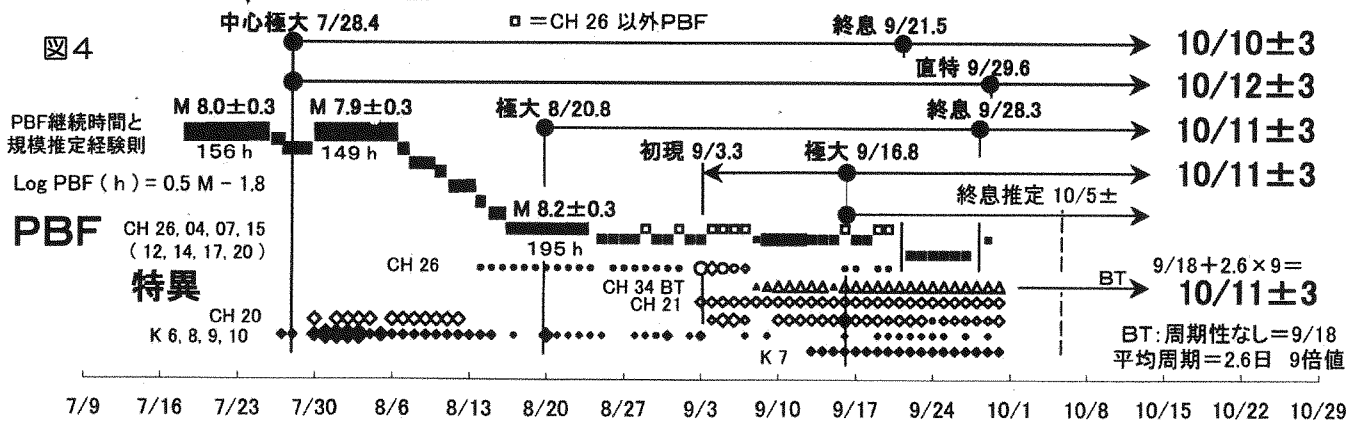
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 続報 9/28.3 PBF 完全終息認識 (55時間以上静穏) 9/29.6 直前特異出現認識
→ 10/12 (±2) 対応地震発生の可能性濃厚 10/5-6 特異終息観測されれば確定



Stage 25 の 14 項目の
変動 = 7/29 ± 3 を示す

Earthquake Precursor Signal No.1778
Stage-26 2022



- 推定領域：図5太線内域
斜線域 = 可能性考え易い参考推定領域
- 推定規模：M 8.0 ± 0.3
- 推定時期：10月12日 (誤差 ± 2日)
但し 10/5 ~ 6 に前兆変動終息確認ができた場合
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時 ± 3 or 午後6時 ± 3

9/28朝06時にCH26-PBFが終息しました。その後静穏基線を記録していましたが、9/29朝05時~22時までの17時間だけ、今までは無い周期約7分のPBFが出現。中心時間帯には火山前兆変動も見られます (本日は火山前兆変動も無く静穏基線)。その後は完全静穏基線記録中。

まずPBFが9/28.3に終息した理由を探りました。9/16.8極大の特異に関係していないことは確かです。現状10/11 ± 発生の可能性が考え易いため、10/11 ± 発生仮定で9/28.3終息で計算しますと、8/20 ± に極大があった可能性が考えられます。8月中のデータを詳しく見直したところ、図1に示すとおり、CH26-PBFが集中出現した時期で1時間程度の終息が何度か見られましたが、継続時間計は190時間以上認められました (計測信頼度やや低い) その中心時期8/20の18~20時の時間帯にCH26及びK6にBF特異があり、K10には系状特異が認められます。このことから8/20の19時前後に極大があったと再認識されます。8/20.8極大~9/28.3終息の関係からは10/11 ± 3発生の可能性が計算されます。9/28.3終息後は完全静穏基線を記録しましたが、次に9/29.6を中心に周期が極めて短いPBFが短時間出現した現象については、CH26の2山型極大の中心極大7/28.4に対する直前特異の可能性が考えられます。7/28.4極大~9/29.6直前特異の関係からは10/12 ± 3発生の可能性が計算されます。CH26他PBFは9/28.3終息以降、本日現在まで直前特異認識の短時間の再出現以外は完全静穏基線を記録中で55時間以上静穏が継続していることとなります。このことから図1~図3の認識が正しい可能性があり、10月12日 (誤差 ± 2日) 対応地震発生の可能性が濃厚と考えられます。これが正しい場合には10/5~6に現在継続中の特異変動が終息する可能性が計算されます。これが観測されれば現在の推定が確定となります。続報にご注意下さい。